

「全鍍連」 2025年 11月号 いきいき地域

全鍍連情報・国際委員 姫野 正樹（京王電化工業(株) 代表取締役）

「エネルギーの源」

情報国際委員の姫野です。このたび「いきいき地域」というテーマで執筆の機会をいただきましたので、日頃感じていることを記させていただきます。

私の会社は東京にございますが、残念ながら社内を見渡しても、また東京の街全体を見ても、「いきいきとした空気感」はあまり感じられません。

日本の豊かさは失われつつあると言われますが、それでも絶対的な貧困は少なく、飽食の国とも言える状況です。そのためか、日々の生活に対する意欲や向上心が、少しずつ希薄になってきているように思います。

一方、弊社が展開しているベトナムの工場では、まったく異なるエネルギーを強く感じます。従業員の月給は700万ドン、日本円で約4万円ほどですが、彼らの眼差しは希望に満ちています。

少しでも多く稼ぎたいという思いから、1日の残業が2時間を下回ると不満の声が上がり、それが続けば残業の多い職場へ転職してしまうほどです。ベトナムの若者たちは、「より良いバイクに乗りたい」「家にエアコンをつけたい」「新しいスマホが欲しい」といった明確な欲求を持っています。そのために汗を流し、暑さの中でも元気に働いています。日々の労働には「もっと良くなりたい」という願いが込められており、それが彼らの生命力となり、職場全体を活気づけているように感じます。

対して東京では、若い従業員から「もっと稼ぎたい」「出世してより良い生活を手に入れたい」といった情熱が見えにくくなっています。ひと通り生活に必要なものは揃っているのか、あるいは競争を避ける傾向が強まったのか、全力で一步上を目指すよりも、現状に満足してしまう人が増えているように見えます。日本社会が成熟した証ともいえますが、それが停滞感にもつながっていると感じます。

人が「いきいき」と働ける社会とは、希望と欲求が循環し、変化を望む気持ちが連鎖することで活力が生まれる社会ではないでしょうか。ベトナムの若者たちの目の輝きは、その象徴のように思えます。そして、それは私たち日本人が忘れてきているエネルギーでもあるのかもしれない。

経営者として、社員に「明日はもっと良くなる」と想像させ、挑戦する意欲をかき立てる環境づくりこそが、私の役割であると改めて感じております。